



楽天イーグルスを立ち上げた経験が僕を覚醒させたんです

きらり
磐田人
いわたじん

社長 (株)ビズリーチ 代表取締役
会長 (株)ルクサ 代表取締役

みなみ そういちろう
南 壮一郎 さん

今回、紹介するきらり磐田人は、現在、日本を代表する若手起業家でありながら、過去にはプロ野球球団の東北楽天イーグルスを立ち上げたメンバーであるなど、いろいろな経歴を持つている南壮一郎さんです。

磐田市の印象は？

し、卒業後はモルガン・スタンレー証券に入社します。その後、子ども頃から憧れていたスポーツビジネスのために退社をし、楽天(株)の創業者であり、東北楽天イーグルデンイーグルスの球団オーナーである三木谷浩史氏に直談判をして東北楽天イーグルスとなり、球団立ち上げ後は、起業家として活躍し、ことし3月には、世界経済フォーラム(ダボス会議)でヤング・グローバルリーダーズにも選出されました。

磐田市は、カナダから帰国して、神明中学校に帰国子女として入学した不安な自分を支えてくれたまちです。磐田市、神明中学校の仲間には、本当に感謝しています。もし、帰国先が磐田市でなかったら、中学時代を共に過ごした仲間がいなかったら、僕はきっと海外の方に魅力を感じて、日本人になっっていなかったと思います。それくらい、僕にとっては、人生のターニングポイントになったまちですね。

海外の大学、外資系の企業とグローバル意識が強いですね

新球団の立ち上げは、かなり大変だったのでは？

幼少を海外で過ごした経験からだと思います。父親の都合とはいえ、世界の広さを知り、体験できたことは本当に幸運でした。それと、両親は「親の仕事は機会を与えることで、子どもの道を決めることではない」がポリシーでしたので、自分の道は自分で決めてきました。今思えば、自分が勝手に決めた道を両親は支え続けているんです。今の自分があるのは、両親のおかげです。感謝しています。

選手もスタジアムも全くゼロの状態から開幕戦まで約5カ月間でしたので、「南、キャンプ地を決めてこい」って感じでした。でも、三木谷さんの「プロ野球チームをつくることで、東北を、プロ野球界を元気にするんだ」という熱い思いが、僕を含めたメンバーにどんなことでも可能にする力を与えてくれました。当時の創業メンバーは、約10年経った今、ほとんどが会社の経営者になっていますね。楽天イーグルスを立ち上げることで、逆に成長させてもらったんだと思います。本当に最高の仲間と歴史づくりができたって感じですね。

楽天イーグルスの創業メンバーとなったきっかけは？

南さんにとって楽天イーグルスとは？

小さい頃からずっとサッカーをやっていて、体育会系なので、スポーツはやるのも観るのも好きなんです。スポーツビジネスにはずっと興味を持っていて、楽天がプロ野球界に参入すると聞いて、球団オーナーの三木谷さんに直談判したんです。そして、当初は10人にも満たない人数でしたが創業メンバーとして球団立ち上げに携わりました。

僕を覚醒させたものですね。諦めずにやり続けられれば、正しいやり方で正しい方向に半歩でも前進できれば、そして情熱があれば、どんなことでも可能だということを教えてくれたものです。

現在はこのような仕事をされていますか？

(株)ルクサでは、インターネットを通じて50%や80%引きで商品や体験を販売しているオンラインのアウトレットモールを運営しています。(株)ビズリーチでは、会員制の転職サイトを運営していて、両社共にインターネットを活用した、社会をより便利にしていくための会社なんです。

ヤング・グローバル・リーダーズへの選出は、これらの起業成果が認められたものですね

それだけではないと思いますが、起業成果も選定理由の一つだと思います。専門分野での実績や社会貢献などを基準にして、将来的に国際舞台で活躍が期待される若いリーダーたちが毎年世界各地から選出、表彰されるものなので、本当に光栄に思います。でも、これは両親や同僚のみんな、これまで出会った方々のおかげです。僕はまだまだです。今、37歳ですが、世の中にか残せるか残せないか、40代、50代が勝負だと思っています。

最高の仲間と 歴史づくり Work Hard, Play Super Hard.

南さんの信念を教えてください

仕事に関して言えば、楽天イーグルスの立ち上げで味わった「最高の仲間と歴史づくり」ですね。つまり、一人ではなく最高の仲間と一緒に、大きなことをやり遂げたいと思っています。それと、「Work Hard, Play Super Hard」。仕事でも、遊びでも、どんなことでも一生涯懸命にやるつもりです。

そのために常に面白いこと、楽しいことをやろうと心掛けています。面白そうだと楽しそうに思ってもらうことで人は集まるんだと思います。それがお客さまであれば、商

品に対して興味を持ってもらえるだろうし、同僚であれば、歴史づくりのための最高の仲間になってくれると思います。そして、自分が死ぬ瞬間に「僕の人生、めちゃくちゃ楽しかったな」って思いながら思いっきり笑って死ねたら最高だと思います。

今後の目標は？

世の中の常識をもっと良くしていきたいと思っています。常識って、必ずしも良いことばかりではないと思います。

無理に変える必要はないですが、もっと良いものがあるなら、自分が正しいと思うやり方で変えていけたら面白いだろうなと思っています。

もう一つは、戦う舞台を世界に移していきたいですね。社会人になってからこれまでの15年間は、比較的日本を舞台にして戦ってきました。これからは、世界を股にかけて、そして社会に貢献できるようにビジネスマンになりたいと思います。

子どもたちに一言お願いします

僕が父親から教えてもらったことです。世界は広いということ、自分の目で確かめてほしいですね。それも、小学生でも中学、高校、大学でもいいので、なるべく早いうちに。視野をできるだけ広げて、いろいろな価値観があることを知ることで、その後の人生が大きく変わってくると思います。また、そのことで、日本に、磐田に興味を湧き、より知ることができ、これまで以上に愛することができるとも思いません。

●プロフィール●

1976年6月15日生。幼少期、中学時代を磐田市で過ごす。米・タフツ大学卒業後、モルガン・スタンレー証券に入社し、2003年に独立。ツテもコネもないゼロからの挑戦を始める。2004年(28歳)に東北楽天ゴールデンイーグルスの創業メンバーとなり、チーム運営や各事業の立ち上げをサポートした後、GM補佐、パリーグ共同事業会社設立担当などを歴任し、初年度から球団事業において不可能とされていた黒字化に貢献する。2007年に楽天を退社し、同年に(株)ビズリーチ、2010年に(株)ルクサを立ち上げ、5年で従業員数400人の企業グループに成長させる。2014年3月には、世界経済フォーラム(ダボス会議)でヤング・グローバル・リーダーズ2014に選出され、その活躍が世界でも認められる。

